

この調査は、苫小牧東部大規模工業基地開発の大型プランが昭和四十七年度から始められることから、われわれ苫小牧郷土文化研究会の手により、

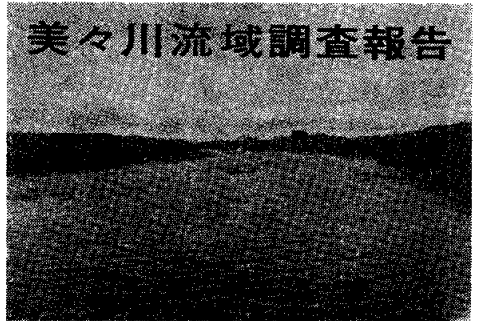
未踏とされていた美々川および周辺湿地帯の実態調査を昭和四十六年八月十四、十五日の二日間にあつてボート三隻に一隻三〜四名乗り、陸上班と相呼応して行なったレポートである。

この調査は今回限りとせず、明年も

行なう予定である。レポートは手を染めたばかりだけに正確度、精密度に欠けていることを了承ねがいたい。

美々川の長さは一二〜一三mの長さでウトナイ湖に注いでおり、流域の湿原は約八〇〇ha。国道三十六号線の両側に細長く、丘陵に沿って位置しているが、北東部に大部分の湿原がある。流量の測定はできなかったが、四年前、土木現業所の調査によると、ウトナイ

美々川流域調査報告



美々川の流れと湿原—ペンケナイ川合流点付近

湖入口で毎秒二六〇トンという記録が残されているが、今日、果たしてこれだけの流量があるかどうか、疑問である。

本流の西部に流れているペンケ川、ペンケ川の伏流水、タンジ沼余剰水、オタルマップ、トキサラマップという小河川の流量が美々川本流の流量に影響するとともに、ウトナイ湖の貯水量に影響を与えることが大であると思量せられた。

動物として淡水魚の調査により、魚類はつぎの種類が確認された。

- (1)フナ、(2)ウグイ、(3)スナヤツメ、

- (4)カジカ、(5)ハゼ、(6)アメマス、(7)ワガニ、(8)カラスガイ、(9)コイ、(10)ドジョウ、(11)大タニシなど。

つぎに鳥類として、(1)カモ類、(2)ワツバメ、(3)ワシ、(4)アオサギ、とくに湿原の中にヤチハンノキが繁茂している箇所に、(5)カワセミを発見したことは大きな収穫であった。

植物は湿原特有のものが群落を形成、開花時だけに見事な美しさを見せていた。

- (1)タヌキモ、(2)ヒルムシロ、(3)コウホネ、(4)クサレダマ、(5)サワゼリ、(6)ハナゴケ、(7)ドクゼリ、(8)エゾミソハギ、(9)サワヒヨドリ、(10)キツネフネクサ、(11)ツクフネソウなど。

時間的によゆうのない調査であっただけに確認の度合が薄かったが、この調査により今後に残された課題が、湿原保護という大命題ととり組む緒をつかむことができたことは、大きな足跡といえた。

東部開発一万亩という広大な面積の地域変貌は、その所産推定三兆二千億円を経済効果をねらった計画だけに、自然の受ける打撃は測り知れないものがある。

(宮小牧郷土文化研究会)